

彦名通信

COMMUNICATION MAGAZINE NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, YONAGO COLLEGE

2018

12

vol.195



全国高専デザインコンペティション 空間デザイン部門最優秀賞（プレゼン審査の様子）



多くの人出で賑わった高専祭



スターリングテクノロジー11連覇！



高専ロボコン中国地区大会（右：本校M科チーム）

Index

高専デザコン	2
高専ロボコン・高専プロコン	3
クラブ活動大会等報告	4・5
高専祭・科展	5・6

クラス便り

2年校外研修・高専祭企画	7～9
3年工場見学旅行	10～12

学会表彰

YMCAとの包括連携協定	13
国際交流	14・15
卒業生は今（vol. 16）	16

全国高専デザコン2部門で最優秀賞を受賞！

建築学科 天野 圭子

11月10～11日に北海道釧路市で開催された「全国高専デザコン2018in北海道」に本校建築学科から「空間デザイン部門」に1作品、「構造デザイン部門」に2作品が本選に出場しました。結果、「空間デザイン部門」は、予選151作品、本選12作品の頂点である最優秀賞を、「構造デザイン部門」は、参加58作品の中、最優秀賞と優秀賞を受賞しました。「空間デザイン部門」の最優秀賞は、2009年豊田大会以来でした。「構造デザイン部門」は、2011年北海道（釧路）から小山、米子、熊本、和歌山と5連覇、その後2016年高知大会では呉高専に、2017年岐阜大会では徳山高専に敗れていました。2年空いてしまいましたが、奪還しました。応援いただいた関係者の皆様、有り難うございました。



大会直後の集合写真

空間デザイン部門 最優秀賞 「集落まるごと町役場」

S1 田川 桜、可知 昂暉、谷口 京、渡部 巴菜

大山町の御来屋地区に点在する空き家に役場の機能をいれ、集落をまるごと町役場にするという提案をしました。

本選までの1ヶ月間、提案のブラッシュアップから模型の製作まで、時間が無い中たくさんの人に手伝ってもらったおかげで納得のいくものを創ることができました。審査員には発想が大胆なことや、空き家問題の解決、役場と住民の関係が近くなることが評価されました。自分たちの案を認めてもらえたのはとても嬉しかったです。また、同じテーマを他高専はどう考えたのかを知れたのは面白かったし、交流できたのは良かったです。



空間部門最優秀賞受賞メンバー

構造デザイン部門 最優秀賞・国土交通大臣賞 「麗瓏」

5A 林 暉、4A 近藤 瑠星、田口 敦也、野田 夏希、秦 周平、森岡 咲里

今回のデザコンは昨年の課題の延長線上のような課題でした。そのため昨年の経験を活かしつつ、昨年の最優秀賞を取れなかった悔しさをばねに6ヶ月間頑張りました。また、3年ぶりに最優秀賞を奪還することができ、さらにリーダーとして取り組むことができいい経験になりました。デザコンをするにあたって、ご指導してくださった先生方、支援してくださった方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



構造部門最優秀賞受賞メンバー

構造デザイン部門 優秀賞 「流々」

4A 但井 秀行、5A 加藤 光佑、年岡 玲央、安田 みのり、4A 林 聖晃、吉持 雄登

僕たちは、構造の研究室だけでなく設計の研究室のメンバーも含めてチームを作り、ブリッジ製作に取り組んできました。今年の競技内容は去年と類似している分、軽量化や工夫が求められ、苦勞した点がいくつもありました。本番直前まで作ってきたブリッジは、壊れ続け、不安が残るまま本番当日を迎えましたが、賞を受賞できたときは努力が報われたと感じられた瞬間でした。今まで協力してくださった方々、本当にありがとうございました。



構造部門本選の様子

高専ロボコン2018 結果報告

機械工学科 権田 岳

今年度の高専ロボコン中国地区大会は、10月21日に島根県松江市の鹿島総合体育館で開催されました。競技課題は「Bottle-Flip Cafe (ボトルフリップ・カフェ)」で、手動ロボットと自動制御ロボットがフィールドに設置されたテーブルにペットボトルをボトルフリップする(投げて立てる)競技です。特に自動制御ロボットのスピード、動作の正確性が求められる内容でした。

米子高専からは、機械工学科を主体とするAチーム(ロボット名:鳥取デザートカフェ)と電子制御工学科を主体とするBチーム(ロボット名:喫茶「Houki〜放機〜」)が出場しました。今年度は予選リーグが設定され、Aチーム、Bチーム共に予選リーグにおいて1勝1敗となり、決勝リーグに進出することはできませんでしたが、Aチームが特別賞(田中貴金属グループ)を受賞いたしました。ご声援をいただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。



参加2チームの集合写真

高専ロボコン2018中国地区大会を終えて

5M 山下 海誓

M科ロボコンチームは、自動、手動のロボット2台を製作しました。自動ロボットは、定荷重ばねを用いた射出機構で、ロボットより高い位置のテーブルにペットボトルをFlip(回転)させ立てることにこだわりました。しかし、大会では射出機構の出力調整に苦しみ実力を発揮する事ができませんでした。一方、手動ロボットは百発百中でボトルフリップを成功させ、その結果、特別賞を受賞しました。後輩には、今年学んだ技術・経験を糧に全国大会に出場、活躍して欲しいと思います。最後にロボコンにご協力・応援してくださった方々に深く感謝いたします。そして今後も熱い応援をよろしくお願いします。



競技中のM科ロボコンチーム

4年生でのロボコンを終えて

4D 中江 渉馬

私たちD科ロボコンチームが製作した『喫茶「放機」』は10月21日に開催された高専ロボコン中国地区大会にて、1勝1敗でリーグ予選敗退という悔しい結果に終わりました。この1年でチーム全体を見て、取りまとめながら自分の仕事をこなすという上級生の役割の難しさを痛感しました。この経験をもとにバランスよく課題をこなす、目標に対して計画を練り上げるスキルを養っていききたいと思います。

ご協力していただいた関係者の皆様、応援してくださった方々に深く感謝申し上げます。どうぞこの先のロボコンも応援よろしくお願いします。



競技中のD科ロボコンチーム

第28回全国高専プロコン競技部門への参加

コンピュータ同好会 3E 梶本 翔、4D 渡辺 弘大、3D 後藤 正和

全国高専第28回プログラミングコンテスト本選が10月27・28日にアスティ徳島で開催されました。競技部門に、4年生1名と3年生2名のチームで参加しました。競技の内容は、2つのチームがマス目で区切られたフィールド上で、いかに多くの陣地を占有できるかを競い、チームの2名がフィールドに行き1名が指示を出して試合を進行するゲームでした。残念ながら、相手チームの戦略に対する相性が悪く、1勝2敗で予選敗退となってしまいました。今回のチームメンバーでプログラムを組むのは初めてのことで難しく感じていましたが、作業を分担したり、作成したプログラムやフィールドへの伝達方法について、お互いに意見を出し合ったりして進めていくことができました。結果は敗退でしたが、大きなプログラムを共同で作っていくことについての大きな経験となりました。この体験を今後の大会で活かして生きたいと思います。応援してくださった関係の皆様ありがとうございました。



大会を終えた参加メンバー

スターリングエンジン部部長 3D 陶山 一宇

平成30年11月3日、ものづくり大学(埼玉県)で第22回スターリングテクノロジーが(企業、大学、高専などから総数140チームが出場し)開催されました。米子高専チームは、3V(ボルト)クーラー部門で11年連続日本一を達成し金賞を受賞しました。スターリングエンジン部として、13大会連続入賞です。また、100Vクーラー(一般用家庭用100ボルトを電源として駆動するスターリング冷凍機)部門でも、準優勝して銀賞を獲得しました。

3Vクーラー部門は、単三電池2本(3ボルト)電源で駆動させ、冷却部の3分間の低下温度を競います。米子高専の優勝記録は、室温からマイナス44.5℃です。この部門では、30.3℃の記録で2位(銀賞)も獲得することができました。100Vクーラー部門は、直径20mm、高さ20mmのアルミを3分以内に10℃冷却させる消費電力の少なさを競う競技で、3213.6Jの記録で優勝しました。無線操縦車部門では、50mを62.72秒で走り6位入賞しました。

ともに頑張ってくれたスターリングエンジン部の仲間たちに感謝します。また、たくさんの方の支援をいただいた顧問の先生、ものづくりセンター技術職員の方々にお礼申し上げます。来年の大会でも、優勝を目指して頑張りたいと思います。



3V冷凍機 準優勝(左)・優勝(右)



スターリング冷凍機 11連覇達成

C3 近田 繭子

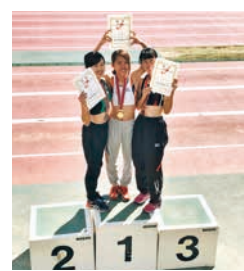
先の10月6～8日に第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体2018」の空手道競技が敦賀市総合運動公園体育館で行われました。私は鳥取県代表として少年女子個人組手競技に出場しました。初戦は富山県の選手と対戦し5-2で突破し、2回戦は新潟県の選手(その後、ベスト8)と対戦し0-8で敗北という結果でした。試合を振り返ると自分自身の力を最大限に発揮できた試合だったと思います。今回の大会が私にとって高校生の部の最後の大会でしたが、自分が納得できる試合ができて良かったと感じています。苦しい時期も沢山ありましたが、部員、コーチ、先生方、家族などたくさんの方々々に支えられ充実した日々を送ることができました。3年間ありがとうございました。



大会での試合の様子

陸上競技部顧問 教養教育科 南 雅樹

5C坂本奈未さんが、10月28日広島市南区の広島スタジアムで開催された第41回中国四国学生選手権の女子800mで堂々3位入賞を果たしました。今年度の坂本さんは、中国高専優勝(3連覇)、全国高専3位と素晴らしい成績を重ねつつ、全国高専後も卒業研究の合間を縫ってトレーニングを続けてきました。中国四国地区の大学生が一堂にそろうこの選手権を高専時代の最後の競技会と位置付けていたからです。大会前に3位入賞を掲げ、持ち前の積極的なレースを展開し、有言実行で有終の美を飾ってくれました。最後までやり遂げ、目的を果たす姿は、後輩への何よりのエールになります。5年間ご苦労様でした。



表彰台での5C坂本(右)

ラグビー部顧問 教養教育科 堀畑 佳宏

ラグビー部は、11月10・11日に徳山大学総合グラウンドで行われた、中国地区高等専門学校体育大会に参加してきました。去年度の大会成績よりシードでしたが、宇部高専に0-45で敗退し、Bパート2位という結果となりました。

ラグビーは1チームの人数が15人と多く、ポジションも多彩なので、各人の個性が発揮できるスポーツでもあります。現在のチームは仲が良く、帰りのバス内では皆で合唱しながら帰ってきました。これからも応援よろしくお願いします。



試合後の会場にて

放送部部長 3D 植木 佑哉

10月6日に放送部制作の映画「夢見る乙女のcontinue（監督4A河本・主演3E升田）」がニューヨークで開催された全米学生映画祭で日本代表として上映されました（残念ながら入賞ならず）。更に11月10日にはパリで開催されたフランス高校映画祭で招待上映されました。自分達の作品が海外で多くの人に見ていただけたというのはとても嬉しく、刺激的な出来事でした。

また、11月11日には、米子市と連携して制作した米子市PR動画「休眠怪獣シロヤマ」が完成し、YouTubeでの配信が始まりました。城山は、遥か昔からそこで寝ていた怪獣だったという設定の作品です。市のプロモーションに携わることが出来、貴重な経験となりました。



「休眠怪獣シロヤマ」の一場面

【米子高専吹奏楽部】

第29回定期演奏会のお知らせ

定期演奏会を下記、日程で開催します。入場無料です。是非ともご来場ください。

日時：平成31年1月14日（祝） 13：00開場・13：30開演

会場：米子市文化ホール



世界記録を活用した伝統食品のブランド化 ～世界一長いきりたんぽ作製の試み～

物質工学科 谷藤 尚貴

私たちは、現役高専生、卒業生、地元企業、秋田県の方等の多くの人達との関わりを経て、11月11日（きりたんぽの日）に「5.12m」の世界一長いきりたんぽ作製に成功しました。この場を借りて感謝とさせていただきます。今回は、秋田高専の学生と一つの目標に向かって協力する活動を行う事で、新たな他高専間交流の形を示す事が出来ました。本記録挑戦が、高専生による伝統食品のブランド価値向上に寄与する活動事例になることを願っています。我々の世界記録挑戦とその成功は皆さんの応援・ご支援のおかげです。ありがとうございました。



大館市役所・陽気な母さんの店・秋田高専・米子高専参加者一同

高専祭を終えて

高専祭実行委員長 4C 村尾 拓海

今年度も11月2・3日の2日間にわたり高専祭を開催いたしました。今年のテーマ「Arius」には、「日々の日常生活とは異なった最高の体験をして欲しい」という思いが込められていました。今年度はNHK交響楽団の方にお越しいただき、1時間半に渡る素晴らしい演奏を披露していただきました。学生にとっても、普段あまり触れることのない音楽の魅力を体感できたのではないかと思います。今年度も高専祭が皆様にとって忘れられない貴重なものになるように学生会員一同準備をしておりました。各クラス、部活・同好会、教職員の方々をはじめ皆様のご協力によりステージ企画、科展、出店など様々な企画を行うことができました。また、地域住民の方々、スポンサー企業の方々にも支援していただき、より盛大に高専祭を行うことができ感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。高専祭を通して物事を成し遂げるためにはどれだけの苦労とどれだけの方々の支えが必要か身をもって学ぶことが出来ました。今年度は私が高専祭実行委員長を任せられ、頼りない部分や至らない部分多々あったと思いますが、学生会員をはじめ皆様のおかげで無事高専祭を終えることが出来ました。高専祭に携わっていただいた全ての方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。米子高専学生会を今後ともよろしくお願いいたします。



平成30年度米子高専学生会



ステージ企画の観客の皆さん

科 展

4年生が専門教育で学んだことを活用して行う高専祭での企画展示です

機械工学科

4M 川辺 瑞記

今回の科展では、「卓上風洞装置」と「ロボットアームによる自動綿菓子機」の2つをグループに分かれて製作しました。限られた製作期間の中で今まで学習したことを活かし、また、先輩や先生方から多くのアドバイスを頂きながら製作に取り組みました。1から装置を製作してみて製作過程での創意工夫や知識の応用など貴重な経験をすることができました。高専祭当日は、装置の仕組みを解説するのに苦労しましたが、小学生から大人の方まで多くの人に展示を見ていただき、科展を通して機械工学に興味を持っていただけたら嬉しいと感じました。



風洞実験(左)・綿菓子機(右)の様子

電気情報工学科

4E 中本 宙希

今年の科展では、「自転車発電機」「超伝導体験」「オリジナルPCゲーム」「脳波体験」の4つの企画を行いました。準備期間はゲーム制作でバグが発生してしまったり、自転車発電機では発電できなかったりするトラブルで苦しむ時もありましたが、先生方のアドバイスやものづくりセンターの方の協力もあり無事完成させることができました。

当日は、小さいお子さんやお年寄りの方まで幅広い方にご来場頂き、特に超伝導で物体が浮くところを見たお子さんの驚いた顔が印象的でした。電気を科展で表現することは難しいことでしたが、少しでも電気に興味を持ってもらうことができたかなと思います。



超伝導体験

電子制御工学科

4D 尾崎 恵斗

今年の科展では、遠隔操作と映像配信技術を用いたカメラ搭載小型車の操縦体験を行いました。その他、ロボコン操縦体験、プロコンやTOEIC・情報系の資格についてのポスターを展示しました。

小型車の操縦体験では車体のカメラ映像だけを見て、直角カーブやトンネル等のギミックがあるコースを走行して頂きました。当日は、車体の故障やネットワークの混信が起こり上手くいかないこともありましたが、多くの来場者の方々に楽しんで頂くことができました。この展示で得た経験を今後に生かして行きたいと思います。



左：遠隔操縦車、右：ロボコン

物質工学科

4C 山本 彩香

物質工学科はバスボム、ケミカルライト、スライム、握める水、スーパーボールの5ヶ所のブースを作り、様々な化学を体験できる企画を行いました。どのブースも参加した方が自分の手でものを作製したり、自分の目で化学反応を見たりできるような企画にしました。また家にもあるものを用いて簡単に作れることや実際に持ち帰ることができるなど、各班で何度も試作し、一般の方にも化学を身近に感じてもらえるような工夫をしました。今回の企画を通して参加していただいた方だけでなく、私たち自身も化学を楽しむことができたと思います。



子供から大人まで楽しめる化学実験

建築学科

4A 大下 歩

今回の科展は、クラスでの話し合いの末「建築学科の美術館」に決まりました。ここでは、これまでに設計製図の授業で学生が製作した町家や集合住宅等の模型を、講義棟2階の吹き抜けに設置した棚に飾りました。普段、建築学科の学生が何を学んでいるのかを、模型を通し多くの方に知って頂くのが目的でした。模型を設置する棚は、段ボールを組み合わせて作りました。規模の大きさから皆の協力が必要不可欠でしたが、クラス一丸となり完成させることができました。来場者の方にも楽しんで頂けました。



「建築学科の美術館」の様子

2 年

オープンファクトリーと高専祭を終えて

学年主任 権田 岳

2年生の秋の主な行事は、オープンファクトリー（校外研修旅行）と高専祭になります。オープンファクトリーは、昨年度までは低学年の学生で希望者を対象に夏季休業期間中に行なわれていましたが、今年度からは従来の校外研修と統合化され、1泊2日で地元企業の見学とクラス企画を行なう内容となりました。2年生の多くの学生にとっては、初めての本格的な企業見学ということもあり、キャリア形成の一環として、貴重な機会となりました。ご多忙の中、オープンファクトリーにご協力くださいました企業・団体の関係者の皆様にお礼を申し上げます。

一方、高専祭では、各クラスが飲食の模擬店を企画し、事前準備や試作、運営、片付けなど、多くの学生が高専祭を楽しんでいました。

2年生の新校外研修旅行（オープンファクトリー）

学生主事 稲田 祐二
キャリア支援室長 森田 慎一

平成30年度からのオープンファクトリーは、昨年度までの自由参加方式から、2年生全員が参加する学校行事（校外研修旅行）に格上げされました。このことで、本校学生全員が、2年次に地元企業を見学し、3年次に工場見学旅行で大手企業を訪問して知見を得ることができる体制が整いました。新校外研修旅行（オープンファクトリー）は、2年生にとって大切なクラス内の交流を重視した旧校外研修旅行の良い点を残すため、企業等の見学を3カ所以内に抑えてクラス企画と組み合わせる形態としました。学生の皆さんが、仲間とともに将来に活かすことができるキャリア（就業知識・経験）を身につけてくれることを望みます。

オープンファクトリー見学先

M	(株)守谷刃物研究所・(株)鳥取銀行・(株)明治製作所
E	(株)鶴見製作所 米子工場・(株)サテライトコミュニケーションズネットワーク・(株)山陰ビデオシステム・米子ガス(株)
D	(株)日立メタルプレジジョン・ファミリーイナダ(株)・ニッポン高度紙工業(株)
C	鳥取県金属熱処理協業組合・TVC(株)・山陰酸素工業(株)&さんそ学習館ケイオス
A	美保テクノス(株)・鳥の劇場・(株)懸樋工務店・米子市役所



オープンファクトリーでの企業説明

オープンファクトリーを終えて

土川 宙

今回のオープンファクトリーでは、地元企業の守谷刃物研究所、明治製作所、鳥取銀行の3社を見学したほか、鳥取砂丘と砂の美術館を訪れました。見学ではどの企業でも充実した体験をさせていただき、自由時間では友人との楽しい思い出を作ることができました。今回の見学で、一番印象に残ったのは明治製作所でした。昨年の夏にも見学させていただき、今回の見学でより理解を深めることができました。印象に残った理由はいつも実験実習で使う工作機械が多数存在し、雰囲気が似ていたことと、巨大な鍛造機械があったことです。このオープンファクトリーでは自分にある様々な可能性を改めて知ることができました。

高専祭でのクラス企画

長島 陸

私たち2年機械工学科はアメリカンドッグを手作りして販売しました。初めて自分たちで手作りの料理を出店するので不安はかなりありましたが、クラス全員で協力して良いものを作ることができました。高専祭1日目は平日ということもあり、なかなかうちの店に来てもらうことはできませんでした。しかし2日目には大勢の人に来ていただき、「美味しかった」や「いいね」など高評価してもらえて嬉しく思いました。

来年の企画はまだ決まっていますが、去年や今年のようにクラス全員で協力していいものができたらいいと思います。



2Mクラス企画（アメリカンドッグ）



見学先での集合写真

地元企業の見学

安達 あずさ

今回のオープンファクトリーでは、地元の3つの企業を見学させていただきました。鶴見製作所の特殊ポンプが全国の企業や東京オリンピックで使われたり、サテライトコミュニケーションズネットワークのケーブルテレビが全国120局以上に採用されたりなど、地元の企業が全国規模で必要とされていると感じました。もちろん地元の人々の生活の支えにもなっており、米子ガスは米子市唯一の都市ガス業者で、家庭用から工業用まで幅広くガスを供給しているとのことでした。オープンファクトリーを通して、地元企業の魅力について知ることができ、今後の仕事について考える良い機会となりました。

高専祭を通して

有田 歩未

今年の高専祭は初めて食品の企画として団子屋さんをしました。食材の調達や値段の設定、当日の売り上げなど、不安要素ばかりでのスタートでした。高専祭が近付くにつれ、だんだんとクラス全体の雰囲気が良くなり、クラスみんなが協力してくれて、一体感が生まれました。当日は、みんなが積極的に宣伝してくれたおかげで、想定をはるかに上回る売り上げで終わることができました。準備期間と高専祭を通して、とても貴重な経験ができたと思います。この経験を来年に生かしたいです。



2Eクラス企画（団子屋さん）



見学先での集合写真

オープンファクトリーを終えて

金尾 莉奈

今回、3社を見学させていただき、特に株式会社日立メタルプレジジョンに魅力を感じました。工場内を案内してくださった方は自分の仕事を詳しく、かつ熱意をもって説明してくださったことが印象に残りました。やりがいや成果が見える形で感じられる職場であるといった点も、魅力に感じました。工場見学は製造工程の説明でしたが、高専生は実践的で反復的な業務だけでなく、新しい機器の開発、経費削減の課題などプロジェクトの底辺を支える役割を担っているというお話もありました。より良い技術者になるため、高専で勉強したことを将来に生かすため、日々の授業や生活を大切にしたいと思いました。

高専祭での「パンケーキ屋」企画

立林 千里

私のクラスは企画を決める最初の方は、クラス全体でまとまって進めることがなかなかできませんでした。その上に私はクラスの高専祭実行委員の経験がなかったので、初めは何をしたら良いか分かりませんでした。話し合っって企画案を出しても、企画案に問題が出てきたり、意見の食い違いでクラスの人と対立したりと不安は多かったです。しかし、他の実行委員、クラスメートに助けてもらいつつ、高専祭本番はクラスみんなで協力してお店を回すことができました。とても楽しい高専祭でしたが、反省点は多かったので、今回の経験を来年のクラス企画運営につなげていきたいです。



パンケーキの調理風景



工場見学旅行の様子

働くことは疲れることだけじゃない

井上 恋

最初は不安や緊張でいっぱいでしたが、その思いはすぐ消え去りました。なぜなら、工場見学は不思議なことでいっぱいでもドキドキしたからです。働いている方々はまるで家族の様でした。「働く」ってことは、とても辛いことや苦しいことなのかなと思っていましたが、面白いことが詰まってるんだと感じました。今回のオープンファクトリーは工場見学だけではなく、レクリエーションや宿泊もあり普段見れない友達の姿が見れ、より一層私たちの絆が深まり、有意義なイベントになりました。

高専祭でのチュロス屋さん

矢倉 明里

今年、私は高専祭実行委員として高専祭に参加しました。私たちのクラスではチュロスを売ることになり、メニューを決めることや器具の発注などを通してたくさん意見を出し合い話し合ったことで、クラス全体がみんなで高専祭を盛り上げ、楽しもうという雰囲気になりとてもよかったと思います。

また、たくさんの友達が遅くまで残って準備をしたり、たくさんの協力があつたことでチュロスを完売することができたと思います。とても感謝しています。

初めは自分たちが中心となって運営していけるのかとても不安だったけど、たくさんの友達と先生方に助けてもらってとてもいい経験ができ、すごく楽しい高専祭でした。



2Cチュロス屋さんの様子



見学先にて

失敗という名の成功

嶋田 峻也

「失敗は今のうちにしておきなさい。」私は懸樋工務店で聞いたその言葉に感銘を受けました。

これまで多くの専門的なことを学んできたつもりでしたが、オープンファクトリーを通して、自分はまだ建築家への階段の一番下にいるんだと感じました。と同時に建築家への憧れが急上昇しました。自分が設計した建物を、胸を張ってプレゼンしている卒業生がすごく大きな存在に見えたのです。私もこんな建築家になりたいと思いました。

私はまだ未熟です。未熟だからチャレンジし、失敗できるのです。残りの高専生活で、たくさんチャレンジしてたくさん失敗したいと思います。

高専祭を終えて

仙田 璃温

今年、私たちのクラスはワッフルを売りました。最終的には想定の数以上の数を売り上げ、2日目の14時には売り切れてしまいました。まさに嬉しい悲鳴でした。高専祭実行委員ははじめての経験で苦勞もしましたが、クラスみんなのおかげで切り抜けることができました。高専祭当日は学生会や部活の仕事もあってあまり2Aのテントにいませんでしたが、みんな時間があればテントに集まって仕事をしてくれていて、このクラスはすごいなと思いました。来年は誰が実行委員になるかまだ分かりませんが、今度は私が精一杯協力できたいと思います。



好評だったワッフル

人は、物事の観察を通じ、大きなものと小さなものを見る。大きなもの、それは「世界」、小さなもの、それは「自分」。学生の皆さんは、工場見学旅行において、何を見て、何を感じたのでしょうか？

10月18～19日に、3年生の特別行事である工場見学旅行が実施されました。目的は、日本を代表する企業の製造現場を見学し、自分の将来の職業観を培うことです。従って、単に目の前の物事を見るのみならず、その「先」に何を見るのかが重要となります。

10月16日の結団式で学生の皆さんにお話したように、普段使っているボールペンを自分1人で作れる人はそう多くはいないでしょう。そう、世の中を支えているのは、膨大な人々の関係と働きです。しかし何気なく生きてみると、そうした「支え」を見て認識する事は出来ません。常に外向きに自分の専門や哲学を深め、世界の「見方」を構築していく事で、様々な「支え」が隠れている事を知っていきましょう。その行為の蓄積が、自分を知ること、そして生への感謝の気持ちに繋がっていく、つまり＜自立＞する事と思います。

さて、学生の皆さんは徐々に進路を具体化していく事と思います。人生に於ける重要な節目の1つである進路、それは自分の進路、決定までの時間はそう長くない、あらゆる物事を見て、それらを鏡とし、自分を知っていかう。まずは、学生生活や工場見学旅行を可能とする上で最も重要な「支え」である保護者への感謝から、始めよう。

工場見学旅行見学先

M	三菱日立パワーシステムズ(株)高砂工場・三菱電機(株)姫路製作所・新日鐵住金(株)広畑製鐵所
E	富士電機(株)神戸工場・三菱電機(株)伊丹製作所
D	大阪ガス(株)ガス科学館・ダイキン工業(株)滋賀製作所
C	キッコーマン食品(株)高砂工場・(株)ヤクルト本社兵庫三木工場
A	KIITOデザインクリエイティブセンター・国立民族学博物館・(株)大林組・日本橋の家



ご安全に！

工場見学で学んだこと

高塚 稜

今回見学させて頂いた3つの工場で、一番印象に残ったことは、色についてです。

まず1つ目は、着衣の色です。作業着やヘルメットの色には複数の種類があり、その種類でその人の所属や立場、仕事内容が分かるため、とても合理的だと思います。

次に、床の色です。通路と作業場の床は白で区切られていて、通路側は緑色でした。帰宅後に調べると、JISで規定されている安全色で、緑は安全や進行を、白は通路や整頓を意味するそうです。

ただの色であっても意味が沢山あり、感心すると同時に思考の幅を広げることにつながりました。今回の見学は自分にとって有意義で貴重な体験でした。

体感して学んだ

山崎 正敬

私は今回の工場見学旅行で、主に2つのことを学びました。

1つ目は、作業工程の自動化の技術革新と普及率の上昇です。見学に行った企業の全てが自動化に力を入れており、7つの行程を全自動で行っている企業もありました。1つの作業にかかる時間や精度は益々改良されていくのと感じました。

2つ目は、高専卒の企業での立ち位置です。高専卒は現場での作業が殆どと思っていたのですが、見学に行った企業では管理職に就いている人もいたと知りました。高専卒は企業から期待されているのだと分かり、これからの高専生活の励みになりました。

今後は工場見学旅行で学んだことを心に刻んで生活していきたいです。



姫路城にて！



神戸ハーバーランド近辺散策の様子

工場見学旅行で思ったこと

景山 峻

1日目は富士電機を見学しました。よりよい製品を提供するための工夫を見て聞いて、企業理念である「豊かさへの貢献」「創造への挑戦」「自然との調和」を感じました。また、米子高専を卒業し富士電機に勤めている先輩の話を聞き、自分の将来について考えさせられ、今すべきことが少し見えました。2日目は三菱電機を見学しました。映像や電車の中を再現したセットを使った説明はとてもわかりやすく感じました。工場見学では効率よく作業を進める工夫がいたる所に凝らされていてとても参考になりました。この2日間はクラスメートとの親睦も深まり将来の進路について考えることができ、いい旅行になりました。

工場見学旅行で学んだこと

橋本 颯太

今回の工場見学旅行で富士電機と三菱電機に行きました。私は今まで労働について漠然としたイメージしか持っていませんでした。しかし、実際に工場で製品が造られている様子を見学して自分が高専で学習している専門分野などとの関連を感じることが出来ました。また、今回の工場見学旅行を通して様々なことを体感することが出来たことで就職や進学などこれからの自分の進路についても深く考えることが出来ました。これからも多くのことを学び、社会で活かすことができるように努力していきたいと思います。



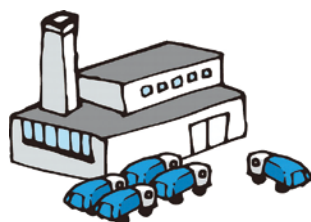
富士電機(株)神戸工場の会社概要説明の様子

僕の見学旅行

田原 駿

僕は見学旅行で大阪ガスとダイキンを見学しました。大阪ガスでは、ガスを貯めている建物の大きさに驚きました。また、ガス事業以外にも発電やセキュリティといった別の事業にも手を出し始めていることに時代の移り変わりを感じました。ダイキンでは、社員さんが出したからくりのアイデアをそのまま反映していることで社員を大切にしているなと思いました。両社とも社内に自然を感じられる設備があることに魅力を感じました。

見学もよかったのですが、僕が見学旅行で一番楽しんだことは食です。1日目にSAで食べたサバの味噌煮定食が絶品でした。サバは安定の美味しさでした。添え物のナスの煮物がやさしい味で最高でした。また、そこにあったチーズかまぼこが何よりもおいしかったです。みんなで食べたピザもおいしかったです。いろいろおいしい旅行で満足でした。



工場見学旅行に行って

眞田 穂果

私たちは大阪ガスとダイキン工業株式会社に行ってきました。大阪ガスでは、どのようにしてガスを家庭に送っているのかを聞きました。ガスがタンクから漏れた時、温度センサで確認していると聞き、センサが活躍しているのだと驚きました。ダイキン工業株式会社では、広い工場内をロボットで部品を搬送していました。ロボットを使うという案は従業員の方が考えたらしく、会社全体でどう改善できるかを考えていて、働くことについて考えることができました。

ホテルでは女子で普段できないような話をして、さらに仲良くなれた様な気がします。



大阪ガス ガス科学館のスキッパーくんと3Dメンバー



ヤクルト本社 兵庫三木工場にて

工場見学旅行

原 望実

私たちは特別行事でヤクルトの工場とキッコーマンの工場に見学に行きました。ヤクルトでは、ヨーグルトなどの乳製品の製造行程を見学しました。多くの作業が機械で行われていました。また、乳製品が体でどのように働くのかを学ぶことができました。キッコーマンでは、古くから伝わる醤油作りの行程を見学しました。今回の見学で、工場で働く方やそこで生かされる技術について知ることができました。将来の目標を考える良いきっかけになったと思います。

工場見学旅行を通して

橋本 真弦

今回の工場見学旅行で兵庫県にあるキッコーマンとヤクルトの工場を見学させていただきました。

キッコーマンでは、日本トップシェアを誇る醤油の製造工程を、ヤクルトではヤクルトをはじめとした乳製品の製造工程を学ぶことができました。工場見学で普段私たちが何気なく口にかけている食品の安全が、工場の方々の努力によって守られているということや、工場の方々がやりがいをもってお仕事をされていることが分かりました。

この体験は高専卒業後の事を考えるきっかけになり、今後は目標を持って学校生活に取り組んでいきたいと思いました。



キッコーマン食品(株) 高砂工場にて



太陽の塔の前で

工場見学旅行の思い出

兼本 星空

建築学科では、2日間の研修旅行で大阪と神戸に行ってきました。1日目で一番印象に残っているのは、太陽の塔の内部見学ができたことです。内部公開は要予約だったので、事前に予約して行きました。順番が来て中に入ると41mの生命の樹を中心に異次元の世界が広がっており、とても感動しました。万博当時から変わってないところが多くあり、タイムスリップしたみたいで面白かったです。2日目は、日本橋の家を見学させていただきました。コンクリートの打ちっ放しの建物でした。建物のいろいろなところに安藤忠雄さんのこだわりが見えてとても面白かったです。

大林組での見学会について

大前 雅敏

私たち建築学科3年生は大林組の現場見学に行きました。

大林組の方に、工事のことだけでなく、現場でのやりがいなども含めて分かりやすく説明していただいたおかげでとても楽しい現場見学だったと思います。現場では、実際に建物を建てる時、どのようにするかなども教えていただいたおかげで自分たちのやっている勉強が活かされるということを実感することができました。実際に見てみないと分からないことが、たくさんあったので、このような機会があって、とても良かったと思いました。



日本橋の家の3階中庭にて

YMCA米子医療福祉専門学校との連携協定について

校長 氷室 昭三

鳥取県は、「成長産業に掲げられている医療、福祉等の分野への新たな取組を支援することにより、鳥取県内における医療機器関連産業の活性化と発展に資するとともに、医療福祉の高度化に寄与する」ことを目的とし、手術支援ロボット、自走式内視鏡、認知症早期発見プログラムなど、様々な最先端の医療機器の活用や開発を鳥取大学医学部や本校と連携して進めています。

これを実現するために、本校は2016年11月15日に鳥取大学医学部と包括連携協力の協定を締結し、このたび2018年10月31日にYMCA米子医療福祉専門学校（以下YMCAと記す）とも包括連携協力の協定を締結しました。

YMCAには、リハビリテーション系の学科として理学療法士科と作業療法士科、福祉系の学科として介護福祉士科があり、全学科が文部科学省の職業実践専門課程の認定を受け、医療・福祉を担う人材を育成している学校です。

今回の締結により、医学を中心に進めてきた連携を福祉も含めて幅広く展開できるようになり、鳥取発の新たな医療・介護機器の開発促進、県内中小企業の医療・介護機器関連分野への進出支援、機運醸成のための取組が期待でき、本校がさらに高度化することになります。



協定書調印式にて
氷室校長（左）とYMCA米子医療福祉専門学校河合校長

Practical Surface Analysis 2018でPowell Prize(3位)を2件受賞

S1 村上 諒、仲村 和貴

11月27日から28日にかけて静岡県沼津市で開催されたPractical Surface Analysis 2018で口頭発表とポスター発表を行いました。参加者の多くは、研究所および企業の研究者の方でした。そして、発表内容は解析現場で直ぐ役に立つ実用化を重視したものばかりであり、発表レベルが異常に高い学会でした。自分の発表が始まると企業の方を中心に私たちの研究に強い関心を持って頂くことができました。そして、本学会でPowell Prize(3位)を2件、頂くことができました。この賞は当該分野の偉人であるC. J. Powell博士(米国国立標準技術研究所)の名を冠した賞であり、このような名誉ある賞を頂くことができ大変光栄に思います。



校長への受賞報告（前列左：村上、右：仲村）

国際学会ICRERA2018にてBest Poster Award受賞

電気情報工学科 石倉 規雄

10月14日から17日にフランスで開催されたInternational Conference on Renewable Energy Research and Applications 2018

(ICRERA2018: 再生可能エネルギーの研究・応用技術に関する国際学会)にて、日本国内で発生した太陽光発電システムの火災事故の原因の一つを究明したという内容でBest Poster Awardを受賞しました。本発表は、中国地区の高専間で結成したPVKnetの活動で、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から受託した研究の成果発表でした。協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



ポスター発表会場にて

トビタテ!留学JAPAN(高校生コース)による留学に参加して

ベリーズでの留学体験

3C 後藤 薫帆

私は8月13日から9月16日の35日間、Projects Abroad が行う、ベリーズのプラセンシアでの海洋環境保護ボランティアに参加しました。ボランティアの内容は、主に外来種であるミノカサゴの駆除や、海洋生物の生態調査、海藻の育成などでした。ときにはボランティアの内容に疑問を持つこともありましたが、他のボランティア参加者と一緒に、より良くするにはどうしたらいいかを話し合うこともできました。

ベリーズのプラセンシアでは、ミルクの代わりに海藻を使ったシェイクのお店やミノカサゴを利用したアクセサリーショップが多くあり、街全体が環境保護を意識しているといった印象を受けました。他にも日本とのボランティア活動の違いを知ることができ、意義深い留学になりました。



留学中の一コマ
(前列右から2番目が私)

イギリスに留学して

3A 大下 万優子

私は9月3日から10月2日までの4週間、イギリスの高校に通いました。この留学を通して、英語でのコミュニケーション力を上げることと、イギリスの建築を学ぶことができました。

留学中は英語での授業が本当に難しく毎日悩んでいました。しかし、ホームステイ先の家族や知り合った現地の友達に助けられて、自分なりに工夫して過ごせました。

自分の中で一番成長したと思う部分は、常に挑戦する姿勢です。挑戦するからこそ、今回の留学ではたくさん悔しい思いもしましたが、この経験によって次の自分に新たな目標を見つけたので、自分の決めたことをやり抜きたいです。



学校での一コマ
(右から2番目が私)

トビタテ! 留学JAPANとは…2014年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度です。採用された場合、地域・派遣期間に応じて返還不要の奨学金が支給されます。現在、第11期(本科3年生以上対象)、高校生コース(本科1・2年生対象)ともに募集中です。詳しくは学生課学生支援室までお問い合わせください。

鳥取県・バーモント州青少年交流事業(10/12~23)に参加して

海外は誰でも行けます!

1E 岩崎 皓大

今回僕は、鳥取県からの支援をいただいて、アメリカのバーモント州でホームステイの経験をすることができました。研修中は、山を登りながら生態系の説明を聞いたり、現地の高校で実際に生活できたりしました。全てのことが貴重な体験で、楽しいと感動の連続でした。

僕がこの研修を経て1番伝えたいことは、みなさんにも外国へ行ってほしいということです。僕はこの研修で初めて外国へ行きました。そのため出発する前は、外国に対して強い憧れを抱いていました。しかし、外国は自分が思っているよりもずっと近くにあって、行こうとさえすればいつでも誰でもどこへでも行けることを知りました。今後もどんどん英語を勉強して、日本では見られない光景を見たいと思いました。



ニューヨークの
タイムズ・スクエアにて

自然豊かなバーモント州

2C 田中 佐和子

今回、アメリカ・バーモント州に滞在し、現地の壮大な大自然と共に毎日を過ごしました。現地の人の話から、人間の経済と自然には強い繋がりがあることを知り、私たちは自分たちの経済を守るためには、まず先に自然を守らなければならないと思いました。また、それらの自然を研究する人たちが研究をするときに生き物に害を与えないように気を使っていると感じ、動物愛護に対する興味がわきました。

現地の高校生との交流では、多様な個性を柔軟に受け止め、お互いを理解しあうことで、親しくなることが出来ました。そして、より多くの国の人と交流し、世界の様々な文化や価値観を持った人と交流したいという思いがさらに強まりました。



キーピングトラック
活動中の一コマ

マレーシアでの語学研修で学んだこと

1D 石原 あみ

私は8月25日から9月23日までの1ヶ月間、マレーシアのマラ工科大学での語学研修に参加し、勇気を出すことの大切さを学びました。

私が行ったマレーシアでの研修は米子高専からの参加者が二人ということもあり、まずは他の高専の人と仲良くなるために自分から声をかけていきました。マラ工科大学ではマレーシアの伝統的なものや、英語の基礎についての勉強をしました。放課後や休日はバディーたちと一緒に遊んで過ごしました。私はまだそんなに英語ができないので、バディーとの会話では始めは翻訳機能などを使っていました。でも、それではせっかく外国へ行ったのに英語が上達しないと思ったので、途中から完璧に話す必要はないと思い、自分の知っている単語を並べるなどして伝えてみました。そのおかげでコミュニケーション能力がついたり目と目を見て会話ができたりしてもっとバディーと仲良くなることができました。

マレーシアの食べ物はおいしいし、観光スポットもたくさんあり、とても充実した1ヶ月を過ごすことができました。



ブルーモスクの前でジャンプ

台湾インターンシップで学んだこと

5C 吉岡 裕香

9月12日から23日にかけて台湾・中興大学理学部化学科にインターンシップに行きました。準備としてパスポート、ビザなど必要なものを全て自分で準備する必要がありました。大使館に行くこともいい経験になりました。

インターンシップの内容としては「がん細胞の分析」を行いました。普段は有機合成に関する卒業研究を行っているため、生細胞を扱うことは新鮮でした。全て英語でのコミュニケーションでしたので、普段の英語の授業とは違いリスニング力やスピーキングスキルも日がついて連れて上達したと思います。ここで重要なのは「聞きたい!」や「理解してほしい」と強い気持ちを持つことです。

研究活動の合間に連れて行ってくださった夜市などは日本には無い大きな規模で、様々な食べ物を食べました。またセブンイレブンに設置された機械でタクシーが呼べ、5分くらいで来てくれることには驚きました。このシステムは日本にも導入して貰いたいと思いました。(ドリンクが安いので毎日タピオカミルクティーを飲んでいました。)



中興大学での一枚

国際シンポジウムISTS2018に参加して

S1 村上 諒

この度、10月6日から14日にかけてタイで開催された国際シンポジウムISTS2018に参加しました。シンポジウムでは、企業から提供された課題に対して、英語によるグループディスカッション及びプロトタイプ製作を行いました。今回のシンポジウムを通して、海外の学生との交流を図ることができ、国際的な視野を広げるための良い機会となりました。最後になりますが、貴重な機会を与えて下さった関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



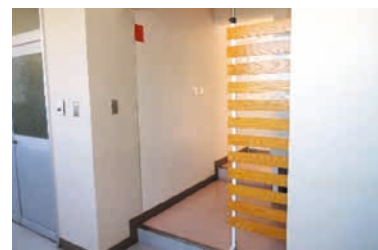
グループ活動のメンバーと共に

女子洗面所入口に「木製パーテーション」を設置しました

男女共同参画推進室長 森田 慎一

平成30年8月末、女子学生の就学環境向上を目的として、女子学生更衣室隣の洗面所入口に木製パーテーションを設置しました。このパーテーションは、女子学生からの「洗面所の見通しが気になる」との意見に対応して取り付けられました。本校総務課の協力を得て、動線や採光に配慮されています。

男女共同参画推進室は、創造性に富む実践的技術者を育成することを通して、技術科学分野への男女共同参画を推進します。



木製パーテーション



才木 直史

2005年 3月 電子制御工学科卒業
2007年 3月 専攻科生産システム工学専攻修了
同年 4月 鳥取三洋電機株式会社入社
2013年 4月 三洋電機株式会社転籍
2014年 4月 パナソニック株式会社転籍
2016年 8月 株式会社テムザック研究所(現株式会社MICOTOテクノロジー)入社
2018年12月 鳥取大学医学部附属病院新規医療研究推進センター入職

才木氏は、米子市にある株式会社MICOTOテクノロジーで次世代医療用ロボットなどの開発に携わってこられました。そのロボットは、気管挿管や内視鏡検査などの練習用のものですが、人間に近い外観やリアルな内部構造をもっており、より実際に近い感覚で訓練することができます。この度、鳥取大学に職場を移し、医工連携分野でますます活躍されるようです。

在学時代は、4年半に亘って学級委員を務めるなど、人望も厚く、様々な企業での経験が今の活躍に活かされています。現在は、かつてクラスメイトだった電子制御工学科の原田篤先生と共同研究を進めており、米子高専との関わりも現在進行形です。



開発に携わった挿管シミュレーションロボット

Q. 今までの会社でどのような業務を担当されてきましたか。

A. 今まで製品開発に携わってきました。具体的には、製品は家電製品（ホットプレート等）やエネファーム、医療用シミュレータ等で、主にそのシステム設計や機械設計に携わってきました。簡単に説明すると、システム設計は、新たに開発する製品に必要な性能や機能を明確にし、製品が動く仕組みを作る作業。機械設計は、図面を描く他、機械が動くメカニズムを考え、具体的に形にしていける作業です。



原田篤研究室で共同研究の打ち合わせ

Q. 様々な職場を経験されたのはなぜですか

A. 目の前の選択肢の中で、それが興味を持てる選択肢だったからです。『石の上にも三年』のように、何事も長い間従事していれば成し遂げられるモノがあると思います。ただ、自分がやりたい仕事に携わることは自分の想いだけでは難しいです。一方で私は、興味の無いことを長い間続けられそうにありませんでした。そこで、興味を持てそうな選択肢が目の前に現れたとき、それを選び自分のベストを尽くすように心がけた結果、私の経歴になっています。

Q. 今後の目標などを教えてください。

A. 夢は大きく、志は高く。だけど、目標は小さくが私のモットーです。なので、目標は小さなものばかりなので、私の今の夢について申し上げます。

私の夢は、希望やワクワク感を持って仕事ができる環境を作ることです。

きっと卒業して県外で就職する人のうち、Uターン転職で帰ってくる人は少ないのではないのでしょうか。私はUターンですが、地元就職を検討し始めた時、興味を持てる職が少なく大変困りました。そこで、私はこれからUターンする人たちが希望やワクワク感を感じながら、この山陰の地で働きたくなるような環境を作ることに尽力出来たら良いな、と思っています。

Q. 後輩へのメッセージをお願いします。

A. 私はお金について勉強することをおすすめします。あなたは将来、仕事をしてお金をもらっていることでしょう。もし、仕事をするのであれば、少しでも多くお金をもらいたいものです。

でも、なぜ仕事をしたらお金をもらえるのですか？ どうしたら多くのお金をもらえるのですか？ 世の中には時給800円の人がいれば、時給8万円以上の人もあるけど、この差って？ 考えてみると私たちはお金について知らないことばかりです。

私にはあなたがお金持ちになれるかどうかは分かりませんが、お金について学んでいけば、きっとお金持ちに近づくことは出来ると思います。どこに行けばお金について学べるって？ とりあえず、ググってみると、ヒントを得られますよ。



本科卒業式での才木氏(中央)

※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…教養教育科、S…専攻科
例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報室

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009

ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/ 印刷：株式会社高下印刷